

平成25年度一般会計及び16の特別会計の決算と水道事業会計決算が大山町議会9月定例会で、4つの財産区特別会計が大山町財産区議会でそれぞれ認定されました。歳入は109億6,147万円でした。名和地区拠点保育所整備事業により県支出金が大きく増加したことが主な要因となり、前年度と比べて2億647万円の増となりました。

歳出は、104億8,093万円でした。名和地区拠点保育所整備事業5億6,557万円の増、町道神原福尾

線改良事業8,400万円の増などが要因となり、前年度と比べて1億8,044万円の増となりました。

町の歳入は地方交付税に大きく頼っており、地方交付税と国や県からの支出金、各種譲与税・交付金、町債をあわせた依存財源比率は78%と非常に大きなものとなっています。今後は町税、ふるさと納税などの寄附金、諸収入、使用料及び手数料などといった自主財源比率を上げていくことが町の課題となっています。

一般会計 歳出 104億8,093万円

(前年度比 1億8,044万円の増)



災害復旧費
3,411万円 0.3%

児童手当、特別医療、障がいのある人の給付金など。昨年度と比べ798万円の増となりました。

町の借金の返済。昨年度と比べ1億7,530万円の減となりました。

職員の給料、各種手当、共済費、議員報酬、各種委員報酬。職員給与3%カットや職員の新陳代謝により、給料や期末勤勉手当(ボーナス)が減となったことにより、昨年度と比べて5,349万円の減となりました。

賃金、消耗品、電話代、電気代、水道代、リース料、委託料など。名和地区拠点保育所の備品購入や道路点検調査委託料などがあり、昨年度に比べ9,572万円の増となりました。

維持補修費
1億5,873万円 1.5%

町の基金へ積立を行いました。昨年度と比べて1億1,842万円の減となりました。

各種団体への負担金、補助金、建物や車の保険料、講演会の謝礼金など。次世代鳥取梨ブランド創出事業補助金の増などが要因となり、昨年度に比べ1,549万円の増となりました。

名和拠点保育所整備を行ったことが大きな要因となり、昨年度と比べ7億598万円の大幅な増となりました。

各特別会計への補助。宅地造成事業特別会計、風力発電事業特別会計への補助を行わなかったことや、公共下水道事業特別会計への補助が大きく減ったため、昨年度と比べ5,622万円の減となりました。